

■中上川彦次郎 実業家。井上馨の推挙で(三井銀行)入り、改革を断行し人材を育成したが、反発を招いて心労死。

なかみがわひこじろう

開国開港・・・1854＝ 豊前國中津城下で、下級藩士中上川才蔵の長男に生まれる。母えんは福沢諭吉の姉。

桜田門外変・・・1860＝ 6歳：

遣欧使節・・・1861＝ 7歳：寺子屋に通って手習いを始め、

8月18日政変 1863＝ 9歳：

薩長同盟・・・1866＝12歳：手島物齋の家塾で漢学を修める。物齋の死去後はその弟に就いて学ぶ。

大政奉還・・・1867＝13歳：叔父福沢諭吉の洋学に興味を抱き、洋学を志し江戸遊学を希望するも許可されず、

明治維新・・・1868＝14歳：藩校の講師となるが、

戊辰戦争終・・・1869＝15歳：砲術修業と称して大阪に出、適塾で諭吉と同僚だった山口良蔵から英語を学んだ後、上京して、諭吉宅に寄寓して、慶応義塾に学ぶ。

初の日刊新聞1870＝16歳：諭吉の推薦で、藩庁から一人扶持で雇用され、

廃藩置県・・・1871＝17歳：帰郷して、新設間もない中津市学校教員になるも、雇用を免じられ、

学問のすすめ1872＝18歳：一家で上京。父が死去して家督を相続。

明治6年政変 1873＝19歳：諭吉の命で伊予大洲に新設の洋学校に転勤後、

佐賀の乱・・・1874＝20歳：諭吉の費用負担でイギリスに学び、

三つの反乱・・・1876＝22歳：財政調査のためロンドンを訪れた井上馨と知り合い、

西南戦争・・・1877＝23歳：帰国。慶応義塾の教壇に立つ傍ら、塾発刊の(民間雑誌)に執筆。

大久保暗殺・・・1878＝24歳：*工部卿井上馨の抜擢で工部省に勤務秘書役となり、天皇行幸に随行して東北・北陸方面を視察、

琉球処分・・・1879＝25歳：石川県士族の娘と結婚後、外務卿に転じた井上に従って外務省に移り、公信局長を命じられ、

・・・・・・・1880＝26歳：長男が誕生。権大書記官・従五位に昇ったが、

明治14年政変1881＝27歳：*政変で、大隈重信・井上馨ら“福沢一派”の一員として官を辞して、

新体詩抄・・・1882＝28歳：長女(のち池田成彬夫人)が誕生。諭吉の興した(時事新報)社長に就任、

諭吉のために(時事新報)の編集・刊行にあたるが、

秩父事件・・・1884＝30歳：次男が誕生。

カリスマ諭吉の独裁に耐えられなくなって、

帝国大学始・・・1886＝32歳：三男が誕生。

国民之友始・・・1887＝33歳：四男が誕生。辞任。井上の推挽で山陽鉄道会社の創立委員総代となり、車掌の語を考案するなど活躍し、

初の対等条約1888＝34歳：認可とともに社長就任するが、翌年にかけて大リストラの一方、広大な土地を購入するなどしたため、

帝国憲法発布1889＝35歳：次女が誕生。

帝国議会始・・・1890＝36歳：五男が誕生。

足尾鉾毒始・・・1891＝37歳：*監査役に格下げされると、時経営が悪化していた三井銀行の再建を政府から依頼された井上馨の推挙に諭吉の勧めもあって、山陽鉄道を辞し、三井銀行理事に就任、年末には副長となり経営の実権を握る。三井銀行に官金御用の辞退を通じて政商路線から抜け出させ、不良債権の整理を強行して同行の経営を正常化。

日清戦争始・・・1894＝40歳：六男が誕生。

さらに進んで、叔父福沢譲りの富豪の富を活用した商工立国の理念によって三井の工業化を進め、三井銀行の資金を積極的に投入することで、芝浦製作所・鐘淵紡績・王子製紙、いくつかの絹糸紡績所、製糸場を三井家の傘下に育成。この間、銀行・工業経営のため、慶応義塾卒業生を多数、三井社員として吸収し、藤山雷太・武藤山治・和田豊治・池田成彬・平賀敏・日比翁助・藤原銀次郎ら近代日本経営史に重要な足跡を残す人材として行く。こうして三井財閥の面目を一新させたが、近代化の強行と非妥協的性格などで、最大の庇護者井上馨の反発を招き、三井内部でも孤立、

八幡製鉄始・・・1897＝43歳：妾との間に、のち藤原義江夫人を経て、参議院議員となる三女アキが誕生。

Bushidou・・・1899＝45歳：続いて四女も誕生。*慢性腎臓炎に苦しみ、兵庫県の金庫取扱事務一切を政府に返還、

田中正造直訴1901＝47歳：心労が重なり、没した。